

## 2025年3月期 連結財務諸表の概要

2025年5月14日

会社名 au フィナンシャルホールディングス株式会社 URL <https://www.au-financial.com/>  
 代表者 代表取締役社長 石月 貴史 TEL 03 (4346) 1990  
 問合せ先責任者 専務取締役 CFO 齊藤 剛 特定取引勘定設置の有無 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期の連結業績(2024年4月1日～2025年3月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は、対前期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期	269,002	18.4	36,810	44.1	35,936	194.5
2024年3月期	227,135	15.6	25,537	58.5	12,201	154.7

(注) 包括利益 2025年3月期 27,852百万円 (85.2%)      2024年3月期 15,041百万円 (364.2%)

	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
2025年3月期	20,883	53	—	—
2024年3月期	7,177	21	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率 (注1)	1株当たり 純資産	連結自己資本比率 (国内基準) (注2)
	百万円	百万円	%	円 銭	%
2025年3月期	7,355,400	270,842	3.61	126,695 13	8.60
2024年3月期	5,604,017	312,694	4.86	160,391 56	8.96

(参考) 自己資本 2025年3月期 266,059百万円      2024年3月期 272,665百万円

(注1) 「自己資本比率」は、(期末純資産の部合計－期末非支配株主持分)を期末資産の部合計で除して算出しております。

(注2) 「連結自己資本比率(国内基準)」は、「銀行法第52条の25の規定に基づき、銀行持株会社が銀行持株会社及びその子会社の保有する資産等に照らしそれらの自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第20号)」に基づき算出しております。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年3月期	27,211	51,973	△ 69,703	689,228
2024年3月期	437,367	△ 52,434	△ 647	679,747

2. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期	2,100,000株	2024年3月期	1,700,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期	－株	2024年3月期	－株
③ 期中平均株式数	2025年3月期	1,720,822株	2024年3月期	1,700,000株

連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
(資産の部)		
現金預け金	684,046	693,300
コール口座債権	27,581	101,233
買入金銭の信託	14,050	35,161
有価証券	17,117	21,333
貸出金	491,720	434,767
外国為替	3,568,207	5,149,321
割賦販売掛金	345	656
その他の有価証券	591,403	702,573
有形固定資産	152,926	152,723
建物	1,847	1,858
建設仮勘定	875	922
その他の有形固定資産	5	59
無形固定資産	966	876
ソフトウェア	50,938	53,562
のれん	29,152	32,170
その他の無形固定資産	9,397	8,378
繰延税金資産	12,388	13,013
貸倒引当金	5,836	11,546
資産の部合計	△ 2,005	△ 2,638
(負債の部)		
預渡性預金	3,766,335	4,538,621
コールマネー	85,000	50,000
債券借取引受入担保金	37,971	879
保険契約準備金	263,157	256,679
支払準備金	6,308	7,217
責任準備金	2,022	2,330
借入金	4,285	4,886
未払金	526,741	1,621,100
その他の負債	431,908	407,641
賞与引当金	172,305	200,296
退職給付に係る負債	1,321	1,704
繰延税金負債	228	301
負債の部合計	45	115
(純資産の部)		
資本	25,000	35,000
資本剰余金	161,660	118,467
利益剰余金	90,013	125,950
株主資本合計	276,674	279,417
その他有価証券評価差額金	△ 3,977	△ 11,992
繰延ヘッジ損益	△ 31	△ 1,365
その他の包括利益累計額合計	△ 4,008	△ 13,357
非支配株主持分	40,028	4,782
純資産の部合計	312,694	270,842
負債及び純資産の部合計	5,604,017	7,355,400

## (2) 連結損益計算書および連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
経常収益	227,135	269,002
銀行事業	80,918	99,959
資金運用収益	45,738	60,086
貸出金利	40,928	51,650
有価証券利息配当	2,427	3,224
コールローン利息	1,881	2,360
預け金利息	408	2,250
金利スワップ受入利息	-	448
その他の受入利息	92	151
役務の取引等収益	29,596	36,730
その他の業務収益	4,989	2,043
その他の経常収益	593	1,099
保険事業	21,672	21,787
保険引受収益	21,514	21,687
正味収入手戻保険料	21,383	21,637
支払備入金戻入額	18	-
その他の保険引受収益	113	50
資産運用収益	0	4
その他の経常収益	157	96
その他の事業	124,544	147,255
経常費用	201,598	232,192
銀行事業	64,240	78,461
資金調達費	4,779	14,223
預金金利	4,222	12,555
コールマネー利息	477	140
金利スワップ支払利息	50	-
その他の支払利息	28	1,527
役務の取引等費用	22,319	26,531
その他の業務費用	2,138	382
その他の経常費用	34,547	37,294
保険事業	455	29
保険引受費用	21,208	22,326
正味支払保費	16,678	18,326
損害支払保費	15,646	16,683
諸手数料調査金	400	472
支払準備金繰入金	244	260
責任準備金等繰入額	-	282
営業費及び一般管理費	386	627
その他の経常費用	3,590	3,339
その他の事業	939	659
その他の事業	116,148	131,404
経常利益	25,537	36,810
特別利益	-	14,302
関係会社株式売却益	-	14,302
特別損失	410	126
固定資産処分損失	321	126
減損	88	-
税金等調整前当期純利益	25,126	50,986
法人税、住民税及び事業税	10,482	12,577
法人税等調整額	△ 1,332	△ 577
法人税等合計	9,150	11,999
当期純利益	15,976	38,986
非支配株主に帰属する当期純利益	3,775	3,050
親会社株主に帰属する当期純利益	12,201	35,936

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
当 期 純 利 益	15,976	38,986
そ の 他 の 包 括 利 益		
その他有価証券評価差額金	△ 880	△ 9,962
繰延ヘッジ損益	△ 48	△ 1,661
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 6	489
その他の包括利益合計	△ 935	△ 11,134
包 括 利 益	15,041	27,852
親会社株主に係る包括利益	11,731	26,587
非支配株主に係る包括利益	3,310	1,265

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	25,000	160,541	77,812	263,354	△ 3,543	5	△ 3,538	38,484	298,300
当期変動額									
親会社株主に帰属する当期純利益			12,201	12,201					12,201
非支配株主との取引に係る親会社持分の変動		1,118		1,118					1,118
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					△ 433	△ 36	△ 470	1,544	1,073
当期変動額合計	-	1,118	12,201	13,319	△ 433	△ 36	△ 470	1,544	14,393
当期末残高	25,000	161,660	90,013	276,674	△ 3,977	△ 31	△ 4,008	40,028	312,694

当連結会計年度（自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	25,000	161,660	90,013	276,674	△ 3,977	△ 31	△ 4,008	40,028	312,694
当期変動額									
新株の発行	10,000	10,000		20,000					20,000
親会社株主に帰属する当期純利益			35,936	35,936					35,936
非支配株主との取引に係る親会社持分の変動		△ 53,193		△ 53,193					△ 53,193
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					△ 8,015	△ 1,333	△ 9,349	△ 35,245	△ 44,594
当期変動額合計	10,000	△ 43,193	35,936	2,743	△ 8,015	△ 1,333	△ 9,349	△ 35,245	△ 41,851
当期末残高	35,000	118,467	125,950	279,417	△ 11,992	△ 1,365	△ 13,357	4,782	270,842

## (4)連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 2023年4月 1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月 1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	25,126	50,986
減価償却費	5,431	5,732
のれん償却額	1,961	1,019
支払備金の増減額 (△は減少)	44	308
責任準備金等の増減額 (△は減少)	711	600
持分法による投資損益 (△は益)	2,538	2,379
貸倒引当金の増減 (△)	709	632
賞与引当金の増減額 (△は減少)	277	382
偶発損失引当金の増減額 (△は減少)	△ 986	-
資金運用収益	△ 48,872	△ 64,897
資金調達費用	4,896	14,467
有価証券関係損益 (△)	1,613	145
為替差損益 (△は益)	△ 2,247	△ 1,055
貸出金の純増 (△) 減	△ 1,221,807	△ 1,581,074
預金の純増減 (△)	1,073,703	772,286
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	19,046	△ 6,477
借入金の純増減 (△)	398,111	1,094,358
譲渡性預金の純増減 (△)	35,000	△ 35,000
コールローンの純増 (△) 減	26,362	△ 73,652
コールマネーの純増減 (△)	37,971	△ 37,092
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	△ 20	△ 310
資金運用による収入	48,802	64,782
資金調達による支出	△ 4,173	△ 9,601
割賦売掛金の増減額 (△は増加)	△ 88,004	△ 111,170
未払金の増減額 (△は減少)	124,598	△ 24,793
その他	3,448	△ 25,422
小計	444,243	37,533
法人税等の支払額	△ 8,729	△ 11,892
法人税等の還付額	1,853	1,571
営業活動によるキャッシュ・フロー	437,367	27,211
投資活動によるキャッシュ・フロー		
買入金銭債権の取得による支出	△ 5,700	△ 26,400
買入金銭債権の償還による収入	3,352	5,364
有価証券の取得による支出	△ 357,814	△ 89,150
有価証券の売却及び償還による収入	326,597	84,210
金銭の信託の増加による支出	△ 10,009	△ 5,004
金銭の信託の減少による収入	-	900
有形固定資産の取得による支出	△ 165	△ 340
無形固定資産の取得による支出	△ 6,416	△ 8,594
関係会社株式の取得による支出	△ 1,837	-
関係会社株式の売却による収入	-	91,700
その他	△ 441	△ 711
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 52,434	51,973
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	-	20,000
非支配持分からの子会社持分取得による支出	△ 563	△ 89,600
非支配株主への配当金の支払額	△ 84	△ 103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 647	△ 69,703
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	384,285	9,480
現金及び現金同等物の期首残高	295,462	679,747
現金及び現金同等物の期末残高	679,747	689,228

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社 7社

au じぶん銀行株式会社

au フィナンシャルサービス株式会社

au ペイメント株式会社

au アセットマネジメント株式会社

au フィナンシャルパートナー株式会社

au 損害保険株式会社

au Reinsurance Corporation

#### (2) 非連結子会社

該当事項はありません。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社 1社

ライフネット生命保険株式会社

#### (2) 持分法非適用の非連結子会社及び関連会社

該当事項はありません。

### 3. 連結子会社の決算日等に関する事項

すべての連結される子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法、その他有価証券については時価法、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

#### (2) 金銭の信託の評価基準及び評価方法

金銭の信託において信託財産を構成している有価証券等の評価は、当社グループが当該有価証券等を保有する場合と同じ方法により行っております。

#### (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

主として定額法により償却しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	2年から18年
工具、器具及び備品	2年から15年

② 無形固定資産

定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、利用可能期間（最長20年）に基づいて償却しております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 2022年4月14日）に規定する正常先債権及び要  
注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、将来発生が見込まれる損失率を合理的に見積もり、予想損失額に相当する額を計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した与信監査部署が査定結果を監査しております。

なお、一部の連結される子会社は、債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計期間に帰属する額を計上しております。

(7) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算は、退職給付に係る当連結会計年度末の自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(8) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(9) 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

(10) 重要なヘッジ会計の方法

金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。その他有価証券に区分している固定金利の債券及び固定金利の借入金の相場変動を相殺するヘッジにおいては、個別にヘッジ対象を識別し、金利スワップ取引をヘッジ手段として指定しております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し両者の変動額を基礎にして判断しております。

(11) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち、定期預け金以外のものです。

(12) のれんの償却方法

のれんの償却については、その効果が発現すると見込まれる期間（20年以内）で均等償却しております。

(13) グループ通算制度の適用

当社及び一部の国内子会社は、グループ通算制度を適用しております。

## 注記事項

### (重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

固定資産及びのれんの評価(持分法上ののれん相当額を含む)

#### (1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額

有価証券	3,660 百万円
有形固定資産	1,858 百万円
無形固定資産	53,562 百万円

#### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

当社グループはのれんを含む有価証券及び固定資産のうち、将来の収益性が著しく低下した等の理由で減損の兆候があると認められる資産又は資産グループについて、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたします。そのため、減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定にあたっては見積りを含む慎重な検討を実施しておりますが、市場環境の変化等により見積りの前提とした条件や仮定に変化が生じた場合、減損損失の計上が必要となる場合がございます。

### (表示方法の変更)

#### (連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「割賦売掛金の増減額(△は増加)」及び「未払金の増減額(△は減少)」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「減損損失」及び「退職給付に係る負債の増減額(△は減少)」は、金額の重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において「その他」に含めて表示しております

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△88,004百万円は、「割賦売掛金の増減額(△は増加)」として、124,598百万円は、未払金の増減額(△は減少)として、「減損損失」に表示していた88百万円及び「退職給付に係る負債の増減額(△は減少)」に表示していた64百万円は、「その他」153百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、連結貸借対照表の貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金の各勘定に計上されているものであります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	1,273 百万円
危険債権額	1,112 百万円
三月以上延滞債権額	301 百万円
貸出条件緩和債権額	696 百万円
合計額	3,383 百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申し立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

2. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産

有価証券	300,634 百万円
貸出金	1,582,514 百万円

担保資産に対応する債務

債券貸借取引受入担保金	256,679 百万円
借入金	1,621,100 百万円

上記の他、為替決済等の取引の担保として、有価証券 69,633 百万円、貸出金 1,140,967 百万円を差し入れております。また、その他資産には、先物取引差入証拠金 13,174 百万円、金融商品等差入担保金 9,196 百万円、中央清算機関差入証拠金 5,000 百万円及び保証金 1,263 百万円が含まれております。

3. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、629,160百万円であります。

4. 有形固定資産の減価償却累計額 1,906百万円

5. 関係会社の株式の総額 3,660百万円

(連結包括利益計算書関係)

その他有価証券評価差額金

当期発生額	△ 14,424	百万円
組替調整額	145	百万円
税効果調整前	△ 14,278	百万円
税効果額	4,316	百万円
その他有価証券評価差額金	△ 9,962	百万円

繰延ヘッジ損益

当期発生額	△ 2,426	百万円
組替調整額	—	百万円
税効果調整前	△ 2,426	百万円
税効果額	765	百万円
繰延ヘッジ損益	△ 1,661	百万円

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	△ 113	百万円
組替調整額	603	百万円
持分法適用会社に対する持分相当額	489	百万円
その他の包括利益合計	△ 11,134	百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度 末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,700	400	—	2,100	
合計	1,700	400	—	2,100	

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	693,300	百万円
定期預け金	△ 4,071	百万円
現金及び現金同等物	689,228	百万円

## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、預金、貸出、有価証券投資、為替、保険などの金融サービス事業を行っております。

これらの事業を行うため、市場の状況に応じ長短のバランスを調整するなどして、金利・為替などの変動による不利な影響が生じないように、各事業ごとに資産及び負債の総合的管理（ALM）を行っております。その一環として、auじぶん銀行株式会社（以下「auじぶん銀行」という。）においてはデリバティブ取引を行っております。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループは、貸出金や債券等の金融商品を保有しております。これにより、信用リスク、市場リスク、流動性リスクに晒されております。

信用リスクとしては、貸出金や市場取引などについて、経済環境の変化や債務者の状況悪化等により、契約条件に従った債務履行がなされない可能性があります。

市場リスクとしては、内外金利、為替レート、債券の市場変動等が挙げられます。例えば金利が上昇した場合、当社グループの保有する国債をはじめとする債券ポートフォリオの価値が減少します。デリバティブ取引としては、主に、金利の変動リスクに対するヘッジ手段として、金利スワップ取引を行い、ヘッジ会計を適用する場合があります。

流動性リスクとは、決済日に必要な資金が確保できなくなり、資金決済が履行できなくなることや、資金の確保に通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスクの管理

当社グループは、信用リスク管理規則に基づき、与信管理に関する体制を整備し運営しております。貸出業務については、当社グループは現状、法人融資を行っておりませんので、個人融資先へのリスクに限定されます。

個人への融資等を行う auじぶん銀行及び auフィナンシャルサービス株式会社（以下「auフィナンシャルサービス」という。）においては、同社及び保証会社の双方にて審査を行うこと等で、与信管理を行う体制を構築しております。また、auじぶん銀行における住宅ローンについては不動産担保を取得することで、auじぶん銀行のカードローンや auフィナンシャルサービスの割賦売掛金等の一部については保証会社より保証を取得することで、リスクの軽減を図っております。

auじぶん銀行における市場業務に係る信用リスクに関しては、外部格付等を参照しながら、有価証券の発行体や市場取引の相手方のリスク評価を定期的実施し、また有価証券時価の把握を定期的に行い、管理しております。

## ② 市場リスクの管理

当社グループが保有する市場リスクの大宗を占める au じぶん銀行においては、以下のように市場リスクの管理を行っています。

### (i) リスク管理体制

au じぶん銀行では、フロントオフィス（市場取引実施部署）から独立した、ミドルオフィス（リスク管理部署）及びバックオフィス（事務管理部署）を設置し、相互に牽制が働く体制としております。

また、経営陣による ALM 委員会を毎月開催し、市場・流動性リスクの管理・運営、及び資産・負債・資本運営に関する重要事項を審議しております。

### (ii) 市場リスクマネジメント

au じぶん銀行では、市場リスクの状況や、リスク限度枠・損失限度協議基準に照らした適正性を、それぞれ日次で計測・確認し経営陣あてに報告するとともに、ストレステストなどを用いたリスク分析を行い、上記日次報告に織り込むとともに ALM 委員会への報告を実施しております。

運営においては、資金の平均運用期間と平均調達期間のバランスを取ることで市場リスクを適正にコントロールし、経営体力に見合った ALM 操作を行うことを基本方針とし、適切なリスク運営を行っております。

### (iii) 市場リスクに係る定量的情報

市場リスクは他のリスクに比べ日々の変動が大きいため、au じぶん銀行ではバリュー・アット・リスク (VaR) を用いた市場リスク量を日次で把握・管理しております。

市場リスク計測モデルにはヒストリカル・シミュレーション法(保有期間 21 営業日、信頼水準 99%、観測期間 250 営業日)を採用しております。ヒストリカル・シミュレーション法とは、現在のポートフォリオに対して、過去一定期間内で実際に起きた市場変動をあてはめた場合に発生すると推定される損益をシミュレーションして VaR を算出する手法で、市場変動の特性を直接的に反映させることが可能になること等が特徴です。

2025 年 3 月 31 日現在における au じぶん銀行の VaR は、3,612 百万円です。

## ③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループでは、各会社において、円貨・外貨のそれぞれについて、資金調達の構成内容や資金繰りギャップの管理、資金流動性維持のための準備資産の管理などを行い、適正な資金流動性の確保に努めております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれる場合があります。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない組合出資金は、次表には含めておりません（(注)参照）。また、現金預け金、コールローン、外国為替、譲渡性預金、コールマネー、債券貸借取引受入担保金及び未払金は、短期間で決済されるため、時価と簿価が近似することから注記を省略しています。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)買入金銭債権	35,161	34,563	△ 597
(2)金銭の信託			
その他の金銭の信託	21,333	21,333	—
(3)有価証券			
満期保有目的の債券	104,844	98,896	△ 5,947
その他有価証券	326,263	326,263	—
関連会社株式	3,660	25,652	21,992
(4)貸出金	5,149,321		
貸倒引当金	△ 2,569		
	5,146,752	5,141,789	△ 4,962
(5)割賦売掛金	702,573	700,545	△ 2,028
資産計	6,340,588	6,349,044	8,456
(1)預金	4,538,621	4,547,283	8,661
(2)借入金	1,621,100	1,613,187	△ 7,912
負債計	6,159,721	6,160,470	749
デリバティブ取引(※1)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(92)	(92)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(2,486)	(2,486)	—
デリバティブ取引計	(2,578)	(2,578)	—

(※1) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( )で示しております。

(注) 市場価格のない組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区 分	連結貸借対照表計上額
組合出資金 (※2)	0

(※2) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 31 号 2021 年 6 月 17 日) 第 24-16 項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託				
その他の金銭の信託		6,070	15,262	21,333
有価証券				
その他有価証券	285,812	40,450	—	326,263
デリバティブ資産				
金利関連	—	9,906	—	9,906
通貨関連	—	1,420	—	1,420
資産計	285,812	57,848	15,262	358,923
デリバティブ負債				
金利関連	—	12,454	—	12,454
通貨関連	—	1,451	—	1,451
負債計	—	13,905	—	13,905

## (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権	—	34,563	—	34,563
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債	98,896	—	—	98,896
関連会社株式	25,652	—	—	25,652
貸出金	—	5,141,789	—	5,141,789
割賦売掛金	—	700,545	—	700,545
資産計	124,549	5,876,898	—	6,001,448
預金	—	4,547,283	—	4,547,283
借入金	—	1,613,187	—	1,613,187
負債計	—	6,160,470	—	6,160,470

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定にかかるインプットの説明

## 資産

## 買入金銭債権

買入金銭債権については、取引金融機関等から提示された価格、あるいは合理的な見積りに基づく合理的に算定された価額によっております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

## 金銭の信託

金銭の信託における信託財産の構成物である有価証券については、情報ベンダーから入手する評価によっております。観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については「(金銭の信託関係)」に記載しております。

## 有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。取引金融機関等から提示された価格等による場合はレベル2の時価に分類しております。

また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には、投資信託委託会社が公表する基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

## 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、残存期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保及び保証による回収見込み額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。時価の算定に当たり重要な観察できないインプットを用いていないため、レベル2の時価に分類しております。

## 割賦売掛金

割賦売掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していると想定されます。ただし、外部と締結している信用保証契約の対象となっている債権については、連結決算日における帳簿価額から債務保証料を控除した金額が時価に近似していると想定されるため、当該価額をもって時価としております。当該時価の算定に際しては、観察できないインプットを用いていないことから、当該時価はレベル2の時価に分類しております。

## 負債

### 預金

要求払預金について、連結決算日に要求に応じて直ちに支払うものは、その金額を時価としております。また、定期預金については、一定の期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いた現在価値により時価を算定しております。割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

### 借入金

借入金については、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を、当該借入金の残存期間を加味した利率で割り引いて時価を算定しております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

### デリバティブ取引

デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に債券先物取引がこれに含まれます。

ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて現在価値技法等の評価技法を利用して時価を算定しております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート、ボラティリティ等であります。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

(注2) 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

金銭の信託においてレベル3の時価となるものがありますが、これらは、第三者から入手した価格を調整せずに使用しており、当社グループが観察できないインプットを推計していないため、記載していません。

(2) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

区分	期首残高	当期の損益又はその他の包括利益		購入、売却、発行及び決済の純額	レベル3の時価への振替	レベル3の時価からの振替	期末残高	当期の損益に計上した額のうち連結貸借対照表日において保有する金融商品の評価損益
		損益に計上(※1)	その他の包括利益に計上(※2)					
金銭の信託 その他の金銭の信託	10,151	159	△48	5,000	—	—	15,262	—

(※1) 連結損益計算書の銀行事業の「その他業務収益」、「その他業務費用」、「その他経常収益」に含まれております。

(※2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(3) 時価の評価プロセスの説明

当社グループはリスク管理部門にて時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って時価を算定しております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合には、所定の検証手続を実施しております。

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

重要な観察できないインプットに関する定量的情報について、第三者から入手した価格を調整せずに使用しており、当社グループが観察できないインプットを推計していないため、記載を省略しております。

(金銭の信託関係)

その他の金銭の信託 (運用目的及び満期保有目的以外) (2025年3月31日現在)

(単位:百万円)

	連結 貸借対照表 計上額	取得原価	差額	うち連結貸借対照 表計上額が 取得原価を 超えるもの	うち連結貸借対照 表計上額が 取得原価を 超えないもの
その他の 金銭の信託	21,333	21,300	32	32	—

(注)「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれの「差額」の内訳であります。

(有価証券関係)

連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」の中の信託受益権を含めて記載しております。

1. 満期保有目的の債券 (2025年3月31日現在)

(単位:百万円)

	種類	連結貸借 対照表計上額	時価	差額
連結貸借対照表計上額が取 得原価を超えるもの	国債	—	—	—
	その他	1,471	1,471	0
	小計	1,471	1,471	0
貸借対照表計上額が取得原 価を超えないもの	国債	104,844	98,896	△ 5,947
	その他	28,244	28,050	△ 193
	小計	133,088	126,947	△ 6,141
	合計	134,560	128,418	△ 6,141

2. その他有価証券（2025年3月31日現在）

（単位：百万円）

	種類	連結貸借 対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,802	1,127	1,675
	債券	—	—	—
	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	45,272	43,477	1,794
	小計	48,074	44,604	3,470
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
	債券	268,650	297,415	△ 28,765
	国債	199,137	223,107	△ 23,970
	地方債	5,938	6,270	△ 332
	社債	63,574	68,037	△ 4,462
	その他	9,538	9,587	△ 48
	小計	278,188	307,002	△ 28,814
	合計	326,263	351,607	△ 25,344

（注）組合出資金（連結貸借対照表計上額0百万円）については、上表には含めておりません。

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自2024年4月1日至2025年3月31日）

（単位：百万円）

	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
債券			
国債	27,478	188	377
その他	1,537	50	6
合計	29,015	239	384

**(収益認識関係)**

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

当社グループにおける顧客との契約から認識した主な収益は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	顧客との契約から 生じる経常収益
役務取引等収益	143,699
銀行業務等	36,730
決済業務等	106,969
その他経常収益	2,384
決済業務等	2,384
合計	146,083

決済業務等はその他事業から発生しております。

なお、上表には「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日)の対象の収益を記載しております。

**(1株当たり情報)**

1株当たり純資産額	126,695円13銭
1株当たり当期純利益金額	20,883円53銭

**(重要な後発事象)**

該当事項はありません。